

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、健康な心身の育成と社会生活に必要な生活能力の育成を図る。

<校訓> あかるく元気な子 なかよく助けあう子 力いっぱいがんばる子

2 学校の特徴

本校は、知的障害のある児童生徒の教育を目的として県下で最も早く設置された学校であり、小学部・中学部・高等部の三つの学部で構成されている。また、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のための訪問教育や、集団生活を通して生活自立を目指すための寄宿舎が併設されており、本年度は全校児童生徒232名が在籍している。

- (1) 心の触れ合いを大切にしながら、個性を尊重した温かい人間関係と豊かな情操の育成に努めている。
- (2) 児童生徒一人一人の障害の状況や興味・関心を大切にしながら、それぞれの教育的ニーズに応じて、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、生活自立と社会参加に向けた指導・支援を実践している。
- (3) 健康で安全な生活習慣や態度が身に付くよう体力づくりに努めるとともに、安全教育を計画的・組織的に実践している。
- (4) 家庭及び地域、関係機関等と連携し、開かれた学校づくりの推進に努めている。
- (5) 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図るとともに、教員の専門性の向上に努めている。

3 学校の現状と課題

- ・本校は、重複障害児が約3割、自閉症スペクトラム障害等発達障害を併せ有する児童生徒が約5割在籍し、障害の状態も重度・重複化、多様化している。したがって、児童生徒一人一人の障害特性に応じた専門的知識や系統的・組織的な対応力が必要である。
- ・学習面や生活面、人間関係づくり等将来的な展望に立った教育的ニーズを的確に把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた指導・支援の充実に努めている。小学部から高等部まで連続性のある一貫した取組となるよう教員、保護者、関係機関と綿密な連携を図る必要がある。
- ・児童生徒が心身共に健康で安全な生活が送れるよう、児童生徒の実態や発達段階に合わせた体力づくりを推進するとともに、感染症の予防に係わる指導や感染防止対策の整備に努める必要がある。
- ・教員一人一人が、危機管理に関する意識を高め、児童生徒への安全教育の徹底を図るとともに、不測の事態に対して組織的に対応できる学校づくりに努める必要がある。
- ・児童生徒への適切な支援のための合理的配慮や教育方針等に関して、保護者との合意形成を十分に図るとともに、地域や保健・福祉・医療・労働等の関係機関とネットワークを形成することで、家庭全体を支える体制づくりに努める必要がある。
- ・卒業後の豊かな生活を目指して、よりよい生活環境や就労環境を整えるため進路支援体制をより充実させていく必要がある。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画		
1	学習活動	教務	目標	・学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえた指導を行い、学習状況を適切に評価し、指導・支援方法を振り返り改善できるよう、個別の指導計画（学習の記録）を活用して、指導・支援の充実を図る。
			計画	・本校の児童生徒の実態、学習指導要領の育成する資質、能力を踏まえ年間学習指導計画の単元や指導内容を検討する。 ・個別の指導計画の意義や機能、本校の学習の記録の活用の仕方について、マニュアルや会議等を通じて、周知する機会を設ける。
		各学部	目標	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、効果的な学習指導及び支援に努める。
			計画	・各教科等の目標と内容や児童生徒の実態に応じた指導方法について、共通理解を図る機会を設定し、一人一人の指導・支援に生かしていく。
		研修	目標	・主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行うことで、一人一人の学びが深まる指導・支援の在り方を検討する。
			計画	・各学部の対象とする教科等において、評価規準を明確にした授業づくり、授業改善を行う。 ・授業実践を通して、各学部と連携し、年間学習指導計画の単元や指導内容の見直しを行う。
2	学校生活	保健 重点課題1	目標	・児童生徒が、健康で安全な生活を営むことができるようにする。
			計画	・ <u>日常生活における健康な生活習慣について児童生徒の意識を高める。家庭との連携を図り、好ましい習慣形成を図る。</u> ・緊急時の対応や感染防止等に関する基礎的な知識の研修や校内環境の整備を行うことにより、教職員の危機管理に対する意識や対応力の向上を図る。
		生徒指導 重点課題2	目標	・災害時における安全指導の充実を図る。
			計画	・災害対策訓練を年3回以上行う。 ・ <u>教職員の防災に対する意識の向上を図る。</u> ・ <u>防災に関する危機管理マニュアルの見直しを図る。</u>
		寄宿舎	目標	・一人一人に応じた自立を目指し、生活支援の充実を図る。 ・舎生が寄宿舎で安心安全に過ごすことができるようにする。
			計画	・舎生の実態や行動特性等を「生活チェックリスト表」や「寄宿舎生活の記録」を用いて共通理解を図る。 ・行事や交流活動、グループ活動などを通して経験を積み、余暇の充実を図る。 ・様々なケースを想定した避難訓練や感染症対策、投薬管理を実践する。また、ヒヤリハット事例を共有することにより、危機管理に対する職員の意識や対応力を向上させる。

3	進路支援	進路指導	目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な進路選択、保護者のニーズの把握、関係機関との連携を大切にして、進路指導を進める。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との進路相談に生かすために、障害者雇用、障害福祉サービスに関する研修の機会を設けたり、地域の事業所の情報を提供したりして、教員の資質向上を図る。 ワークシート等を活用して生徒の進路面談を実施する。 家庭の状況や保護者のニーズを確認し、生徒の進路希望とすり合わせを行う。
4	特別活動	特活	目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が児童会活動及び生徒会活動に主体的に取り組めるよう、実態や発達段階に合わせた指導・支援の充実を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 活動の場や時間の設定、支援方法等を工夫したり、活動計画を分かりやすく示したりすることで、児童生徒が主体的に活動に取り組むことができるようにする。 「児童会生徒会通信（仮）」を作成し、活動内容の振り返りや周知ができるようにする。
		図書	目標	<ul style="list-style-type: none"> 読書環境の充実を図り、児童生徒の読書に対する興味・関心を高め、読書活動の推進を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が利用しやすい図書室の環境づくりを行う。 生徒会図書委員会を中心として児童生徒にとって親しみやすい図書の紹介を行う。 児童生徒の生活年齢や発達年齢、障害の特性に応じた図書を選定し、小学部・中学部への移動図書、読み聞かせの会、校内読書感想画コンクールを実施する。
5	その他	教育相談 重点課題3	目標	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能の充実を図り、地域の幼稚園、保育園、認定こども園、小学校及び中学校、義務教育学校、高等学校（以下小・中学校等）に在籍する幼児児童生徒等を支援する。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <u>地域の小・中学校等へよりよい支援の提案や情報提供ができるように、教材や資料等の校内資源の整理・整備を行い、地域支援に活用する。</u>
		総務	目標	<ul style="list-style-type: none"> P T A行事を見直し、満足できるP T A活動の企画・運営をサポートする。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の要望や前年度の反省を生かして、保護者が積極的に参加できる活動を計画する。
		情報	目標	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末やプロジェクタ等のI C T機器利用環境の整備や執務用P Cの安全かつ効率的な情報管理運用を図る。 職員のI C T活用能力・技術の向上をめざし、授業等において積極的な活用を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> 執務用P Cの効果的な活用を促進するとともに、I C T機器を授業等で活用できるよう、環境を整える。 授業や分掌業務等の作業が円滑かつ効率的に進めることができるよう、サーバー内のフォルダ構成や保存するデータの整理・精選を行う。 会議や授業等においてI C T機器が積極的に利用できるよう、I C T機器の有効的な活用方法やアプリケーションに関する研修を行ったり、I C T機器を活用した授業研究を実施したりする。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動(保健)
重点課題	健康な生活習慣について児童生徒の意識を高め、好ましい習慣形成につなげる。
現 状	<p>本校児童生徒の普段の姿勢には、猫背、足組み、もたれかかり等の様子がみられる また、学習時や家庭での余暇活動の中で ICT 機器を利用することも増えており、その際の姿勢も意識する必要がある。そこで、昨年度より「良い姿勢に繋がる身体づくり」として保健指導に取り組んできた。良い姿勢が心身の健康に関係することを伝えるとともに、学校生活のなかで（特に着席時）自分の姿勢を意識する機会を設けた。</p> <p>良い姿勢の定着には自ら意識することや姿勢の保持に必要な「身体づくり」も必要である。そこで、「身体づくり」の観点から、学校、家庭への啓発とともに児童生徒が日常的に取り組める「良い姿勢と身体づくりのためのエクササイズ」の推進を行うことにより、体幹強化やけがをしない柔軟性等、健康な身体づくりの習慣化を図りたい。</p>
達成目標	<p>「良い姿勢に繋がる身体づくり」啓発のための取組</p> <p>年間5回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自身の姿勢や身体について知り、身体づくりに繋がる活動を促す ・全校児童生徒が、運動に継続して取り組めるような期間を設定する。 ・良い姿勢やエクササイズの取り組み場面を取り上げ、掲示や表彰を行う。 ・姿勢や身体づくりに関する資料や刊行物の紹介等の情報提供を行う。 ・家庭でできるエクササイズの紹介や長期休業中の家庭での取り組みを促す。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 高岡支援学校アクションプラン - 2 -					
重点項目	学校生活（生徒指導）				
重点課題	災害時における安全指導の充実を図る。				
現 状	<p>本校は、土砂災害警戒区域に指定されている。学校防災（火災・地震・土砂災害）のマニュアルを作成し、年3回の災害対策避難訓練を実施している。学部授業参観日の際には、保護者にも参加してもらい引渡し訓練も実施し災害に備えている。</p> <p>児童生徒の実態が多様化し、教職員の入れ替わりも多いことから毎年避難訓練をとおして避難方法の確認を行い教職員間で共通理解を図っているが、昨年度まで感染症対策下で縮小した形での訓練を行っていた。今年1月の能登半島地震に於いて本校校舎南側に崖くずれが発生し校舎の一部が損傷することがあった。また今後第3小学部棟となる新小学部棟が完成するため、新たに避難経路等を作成し、全教職員及び児童生徒に周知する必要がある。そこで、改めて災害対策避難訓練を見直し、先生方への安全指導の理解を周知することでリスクマネジメントの充実を図りたい。</p>				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>災害時における本部設置の仕方および教職員の動きを踏まえた避難訓練を実施した回数</td> <td>新小学部棟完成に伴う避難経路の確認の実施</td> </tr> <tr> <td>年3回以上</td> <td>各学級1回以上</td> </tr> </table>	災害時における本部設置の仕方および教職員の動きを踏まえた避難訓練を実施した回数	新小学部棟完成に伴う避難経路の確認の実施	年3回以上	各学級1回以上
災害時における本部設置の仕方および教職員の動きを踏まえた避難訓練を実施した回数	新小学部棟完成に伴う避難経路の確認の実施				
年3回以上	各学級1回以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路図完成後、教職員に周知を行う。 ・学校危機管理マニュアルの見直しを行う。 				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 高岡支援学校アクションプラン - 3 -

重点項目	その他（教育相談）	
重点課題	地域支援に役立つ教材や資料等の整理と活用	
現 状	<p>教育相談部では、地域の小・中学校等への教育相談に際し参考資料とすることを目的に本校教員の協力を得て、自作の教材等を紹介する『教材ファイル』を作成している。令和2年度には相談内容のニーズを踏まえて、国語や算数・数学、自立活動の教材を追加して内容の充実を図ったものの、その後は教材や資料等の追加をしていない。近年は小・中学校等への教育相談の際には、『教材ファイル』にある教材や資料等を参考にすることはあるものの、特別支援教育コーディネーター（以下「Co」）が自身で収集・作成した資料を提示することが多く、それらの資料をCo間で共有することは少ない。</p> <p>毎年、小・中学校等の教員が来校する学校説明会や学校見学会、特別支援学級等新任担当教員研修会等の機会に、校内にある教材や参考図書、使用方法等の資料を収集し展示しており、展示後は年度ごとに『教材紹介』としてファイリングして保管しているが、特に活用が図られていない状態である。</p> <p>そこで、今まで収集及び使用した教材や資料を整理して、有効活用ができるよう『教材・資料ファイル』（仮）としてまとめ、小・中学校等への支援に役立てたいと考える。</p>	
達成目標	①教育相談部で所持している教材や資料の整理	②小・中学校等への教育相談において『教材・資料ファイル』（仮）を持参し提示等を行う割合
	年間3回以上	75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・『教材ファイル』や『教材紹介』及び過去の教育相談で使用した、教育相談部で所持している教材や資料を「国語」「算数・数学」「自立活動」「視覚支援」等の分類に整理する。 ・分類ごとのファイルにしたり、必要な資料のみ持ち出せるようにしたりする等、ファイリングの仕方を工夫する。 ・小・中学校等への訪問相談の際に『教材・資料ファイル』（仮）を提示し、有効な支援について提案・紹介する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）